

講義科目名称： 基礎看護技術演習Ⅱ

授業コード： 2230100500

英文科目名称： Practice in Nursing SkillⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、谷内田潤子、山岸美奈子、川島良子、池田よし江			
添付ファイル			

授業種類	<div>【開講】後期</div> <div>【授業時間】15時間</div> <div>【担当教員】</div> <div><div>【氏名】</div><div>◎岡村 典子</div><div>谷内田 潤子</div><div>山岸 美奈子</div><div>川島 良子</div><div>池田 よし江</div><div>金井 系未</div><div>山内 豊明</div></div> <div><div>【研究室】</div><div>216</div><div>共同研究室1</div><div>共同研究室5</div><div>206</div><div>共同研究室1</div><div>共同研究室5</div><div>放送大学（客員教授）</div></div> <div>実務経験のある教員が担当します。</div> <div>【本学の科目区分】専門科目</div> <div>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】看護師課程</div> <div><div>【DP1】○</div><div>【DP2】◎</div><div>【DP3】</div><div>【DP4】</div><div>【DP5】</div><div>【DP6】</div><div>【DP7】</div></div>
到達目標	対象の健康状態をアセスメントするための知識・技術を習得する。
授業概要	学修する各看護技術の目的と意義、そして実施するための知識・技術を習得する。この科目では、対象の健康状態をアセスメントするために必要となるバイタルサイン、フィジカルアセスメントに関する技術について、必要な知識を学ぶとともに演習を通して技術の習得を目指す。 ※A・Bグループに分かれて少人数で演習を行う。詳細のスケジュール（担当教員含む）は後日配布する。
授業計画	<div>1</div> <div>授業内容</div> <div>授業形態：講義</div> <div>学習課題：ヘルスアセスメントとは</div> <div>学習内容：ヘルスアセスメントとは</div> <div>フィジカルアセスメントの基本技術</div> <div>健康歴の聴取</div> <div>備考：山内豊明 先生</div> <div>2</div> <div>授業内容</div> <div>授業形態：講義</div> <div>学習課題：生命活動の観察</div> <div>学習内容：生命活動としての呼吸・循環・体温</div> <div>バイタルサインとは</div> <div>バイタルサインの観察と正常・異常、影響因子</div> <div>備考：</div> <div>3-8</div> <div>授業内容</div> <div>授業形態：演習</div> <div>学習課題：バイタルサインの測定と観察</div> <div>学習内容：聴診器、血圧計の点検と取り扱い方</div> <div>体温・脈拍・呼吸・血圧測定の方法</div> <div>記録の方法</div> <div>備考：</div> <div>授業形態：演習</div> <div>学習課題：頭頸部のフィジカルアセスメント</div> <div>学習内容：頭頸部形状、甲状腺、頭頸部リンパ節</div> <div>備考：</div> <div>授業形態：演習</div> <div>学習課題：呼吸器、心臓・血管系のフィジカルアセスメント</div> <div>学習内容：呼吸音聴取、心音聴取、動脈触知、心拍と脈拍の同時聴取</div> <div>備考：</div>

	<p>授業形態：演習 学習課題：腹部、乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 学習内容：腹部全体の触診・聴診・打診、腹部膨満、腸蠕動音聴取 備考：</p> <p>授業形態：演習 学習課題：脳・神経系のフィジカルアセスメント 学習内容：脳神経、運動機能、反射、感覚機能 備考：</p> <p>授業形態：演習 学習課題：筋・骨格系のフィジカルアセスメント 学習内容：関節可動域、徒手筋力検査 備考：</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの基盤となる「形態機能学Ⅰ・Ⅱ」の学びを振り返り、学修に臨む。</p> <p>事後学習：バイタルサインの技術は、確実に習得する。また、フィジカルアセスメントの技術は、演習にて視聴した図書館にあるDVDも活用し習得を目指す。</p>
評価方法、評価基準	<p>到達目標に対し、下記の3点にて評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験70%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。 2. 課題20%：課題内容は、学習の進行に応じて講義時に説明する。 3. 学習態度10%：演習、グループワークに主体的・能動的に取り組んでいるかについて評価する。
必携図書	<p>自作テキスト：ファイルにて配布、ハンドアウト資料使用</p> <p>医療情報科学研究所編集：看護がみえる vol13 フィジカルアセスメント，メディックメディア。</p> <p>有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。</p>
参考図書・資料等	特になし
受講、課題、資料配布等のルール	<p>・演習は時間の中で順序立てて進めていくため、20分を超える遅刻や途中退席は欠席とみなし、遅刻3回で1時限分の欠席とする。出席日数が規定に満たない学生は試験を受けることはできない。また、服装・髪型・爪などの身だしなみ、言葉遣いといった演習に取り組む姿勢にも留意すること。なお、学習課題の順番は変更する場合がある。</p> <p>・看護技術の習得を目指すため、課題へ意欲的に取り組むとともに、時間外の自己学習も必要となる。</p>
教員からのメッセージ	アセスメントに関する技術は、対象の健康状態を把握するための重要な看護技術です。そのためには、看護技術に関する知識の修得とともに反復練習が欠かせません。自習時間を十分に活用した練習を期待しています。
オフィスアワー	